

令和6年度第1回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会

配 付 資 料

- 令和6年度 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿 P 1
- 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会設置要綱 P 2
- 【資料1】 令和5年度第3回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会の概要 . . . P 3
- 【資料2】 伊勢志摩地域の県立高等学校（全日制）の入学者選抜の状況 P 5
- 【資料3】 市町別の中学校卒業者進路先の推移 P 7
- 【資料4】 令和6年度の協議について P 8
- 【資料5】 令和5年度の協議（今後の学びと配置のあり方について） P10
- 【資料6】 伊勢志摩地域 中学校卒業者数の推移と予測（含社会増減） P13
- 【資料7】 伊勢志摩地域の中学校卒業者数と
県立高等学校入学定員の推移と予測 P14
- 【資料8】 伊勢志摩地域および松阪地域の高等学校等の
学科・コースについて（令和7年度） P15
- 【資料9】 県立高等学校（全日制）の学級数の状況（令和7年度） P16
- 【資料10】 伊勢志摩地域の県立高校卒業生（全日制）の進路状況 P17
- 【資料11】 伊勢志摩地域の県立高等学校の特色（各学校より） P18
- 【資料12】 令和21年度までの伊勢志摩地域の県立高等学校（全日制）の
総学級数と当協議会の協議について P29

令和6年度 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿

No	所属及び名前	本年度 出席委員	新・継
1	学識経験者 三重大学 教育学部 教授 田中 伸明	○	継続
2	地域有識者 亀谷内科胃腸科 院長 亀谷 章	○	継続
3	鳥羽商工会議所 専務理事 清水 清嗣	○	継続
4	志摩市商工会 事務局長 前田 富生	○	新
5	度会町商工会 事務局長 富内 伊佐雄	○	継続
6	伊勢市教育委員会 教育長 岡 俊晴	○	継続
7	鳥羽市教育委員会 教育長 小竹 篤	○	継続
8	市町教育委員会 教育長 志摩市教育委員会 教育長 舟戸 宏一	○	継続
9	度会町教育委員会 教育長 中村 武弘	○	継続
10	南伊勢町教育委員会 教育長 劔山 成実	○	継続
11	県立高等学校長代表 県立宇治山田商業高等学校 校長 江崎 徹	○	新
12	小中学校長代表 伊勢市立港中学校 校長 清水 能人	○	継続
13	鳥羽市立加茂中学校 校長 谷口 三津夫	—	継続
14	志摩市立文岡中学校 校長 小林 和浩	○	新
15	度会町立度会中学校 校長 辻井 良孝	—	新
16	小中学校PTA代表 伊勢市PTA連合会 代表 林 雅哉	○	新
17	鳥羽市PTA連合会 代表 山下 慎也	○	新
18	志摩市PTA連合会 代表 中島 英之	○	新
19	度会郡PTA連絡協議会 代表 上谷 伶奈	○	新
20	高等学校PTA代表 南勢地区高等学校PTA連合会 代表 吉岡 勝裕	○	新
21	小中学校教職員代表 鳥羽市立加茂小学校 教諭 出口 晴之	○	継続
22	鳥羽市立鳥羽東中学校 教諭 久米 誠	○	新
23	高等学校教職員代表 県立伊勢高等学校 教諭 東 正豊	○	新

伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会設置要綱

(設 置)

第1条 少子化などの社会の変化が著しい中、伊勢志摩地域における高等学校の特色化、魅力化を図るとともに、生徒にとって魅力ある学習環境を整備するため、伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会（以下、「協議会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について具体的に検討し、協議する。

- (1) 今後の伊勢志摩地域全体における県立高等学校の在り方に関する事
- (2) 伊勢志摩地域の県立高等学校活性化の方策に関する事
- (3) 施設・設備に関する事
- (4) その他検討を要する事

(組 織)

第3条 協議会は、学識経験者、地域有識者、小中学校PTA関係者、高等学校PTA関係者、関係市町教育委員会教育長、小中学校長代表、県立学校長代表、教職員代表等で組織する。

- 2 協議会に、会長、副会長を置く。
- 3 会長及び副会長は、委員の中から互選により決める。
- 4 会長は会務を総理し、副会長は会長を補佐し会長に事故ある時は職務を代行する。
- 5 協議会は、必要に応じて関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(調査委員会)

第4条 協議会のもとに、必要に応じて調査委員会を設置する。

- 2 調査委員会は、テーマに応じて会長の指名する関係者で構成する。

(会 議)

第5条 協議会は、会長が招集し、会長が議事運営する。

- 2 協議会の庶務は県教育委員会事務局において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関する事項は会長が定める。

附 則

この要綱は平成24年 6月28日から施行する。

この要綱は平成29年 8月 1日から施行する。

令和 5 年度第 3 回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会の概要

- 1 日時 令和 6 年 2 月 28 日（水）19 時 00 分から 21 時 00 分まで
- 2 場所 県伊勢庁舎 401 会議室
- 3 概要

今後、想定される段階的な学級減への対応について、令和 4 年度の当協議会のまとめにある「専門学科の学びの選択肢や普通科の一定規模の維持」についてさらに協議を深め、「統合も含めた活性化が必要である」ことを再認識したうえで、今後検討を進めるための視点やスケジュール等を「令和 5 年度の協議（今後の学びと配置のあり方について）」としてまとめました。

主な意見は次のとおりです。

≪「令和 5 年度の協議（今後の学びと配置のあり方について）」（案）について≫

（基本的な考え方について）

- 学校規模やスケジュール感も大切だが、子どもたちの学びを中心にして、選ばれる学校・魅力ある学校とは何かを考えながら、再編を検討する必要がある。
- 選ばれる学校に関しては、入学希望者数や欠員数だけでなく、高校 3 年間で子どもをどのように育て、送り出しているかも大切にして、協議を進めてほしい。
- 入学者選抜の志願状況から中学生のニーズが見てとれるが、学びの内容だけでなく立地条件等を含めて総合的に分析したうえで、子どもたちをどのように育てるのかを地域全体で考える必要がある。

（専門学科・総合学科について）

- 令和 13 年度以降の学級減に対しては、専門高校の統合も視野に入れる必要がある。農業や工業などの専門学科は、学校や学科によって特色が異なることもふまえると、松阪地域の高校との再編も含めて検討する必要がある。
- 鳥羽高校を普通科から総合学科に改編したのは、産業人を育てるという使命に加え、教員数や予算的なメリットがあったからであるが、1 学級となることで総合学科の魅力を十分に生かしきれなくなるのではないかと危惧している。
- 水産高校では実習船が新造され、当面は維持される方向性が見えているが、寮がなくなり周辺の下宿も少なくなる中、地域外からの入学者の増加に向けた取組にも限界がある。この際、より通学の利便性が高い場所への移転を検討してはどうか。

（普通科について）

- 普通科には、難関大学への進学を希望する生徒だけでなく、就職を含む幅広い進路を希望する生徒が入学している。このことをふまえ、多様なニーズに応えられる普通科での学びの機会の保障に関する記述を加えてほしい。

- 大学進学ニーズに応えられる普通科高校が地域に1校は必要であるが、学校規模が小さくなることで、そのニーズに応えられなくなるよう、一定規模の目安となる学級数は記載したほうがよい。
- 私立高校については、定員がほとんど減らない中、定員を超えて入学している現状がある。地域の県立高校の魅力が低下すれば、私立高校や他地域への進学者の増加につながるため、今一度、公立と私立のバランスについて考えてもらいたい。

(1学年1～2学級の小規模校について)

- 小規模でもそのメリットを生かして成果をあげている高校があり、そうした学校の努力や工夫もふまえて議論を進める必要がある。
- 令和20年度までに地域全体で10学級程度の減となれば、2～3校は減ることが想定される。目先の学級減にとらわれがちだが、最終的にどのような高校の配置がよいのかを議論したほうがよい。
- 小規模でも地元に残してもらいたいという思いはあるが、限られた教員数で教育環境を維持するのは厳しいことも理解できる。一概に学校を残すというのではなく、何らかの方法を講じて学びの機会を確保してほしい。

(今後の協議の進め方について)

- 15年先の教育環境は不透明であることから、現行の活性化計画（令和4年度から8年度まで）に基づき、次期活性化計画（令和9年度以降）につながる議論をしているという視点を記載すべきではないか。
- 「伊勢市内の高校の再編」については、私立高校を含めて検討する必要がある。また、「小規模校のあり方」については、1学級規模の3校の統合はやむを得ないという前提で結論を出す必要がある。
- 定時制、通信制も含めた多様な学びの保障という視点が抜けているのではないか。
- 望ましい学校規模や小規模校の活性化などについては、長年の議論で意見は出尽くしたのではないか。統廃合が避けて通れない中、少しでも早く結論を出すため、事務局から具体的な案を示したうえで議論すべきである。
- 統合する際には、スクールバスの利便性の向上や通学費の補助、地域の学校が共通で利用できる寮の設置など、遠方の学校に通わざるをえなくなる生徒への支援について検討が必要である。
- 主に中学生の進路選択への配慮から、統合する場合は3年前までに公表するとのことだが、大規模な施設・設備の整備が必要な学校を統合する場合は、予算および工期を確保するため、開校の4年前までには結論を出すことが望ましい。

伊勢志摩地域の県立高等学校(全日制)の入学者選抜の状況(令和6年3月卒・現高1)

資料2①

学校名	学科・コース	入学定員	R5.12時点の進学		前期選抜等			後期選抜			再募集		入学者数	定員との差 (欠員)		
			希望者数	定員との差	募集人数	志願者数	志願倍率	合格内定者数	募集人数	志願者数	志願倍率	合格者数			募集定員	志願者数
明野	生産科学	40	42	2	20	45	2.25	22	18	19	1.06	17	1	0	40	0
	食品科学	40	38	▲2	20	38	1.90	22	18	12	0.67	12	6	2	36	▲4
	生活教養	40	47	7	20	45	2.25	22	18	20	1.11	18	0	0	40	0
	福祉	40	29	▲11	20	28	1.40	22	18	12	0.67	14	4	1	37	▲3
	計	160	156	▲4	80	156	1.95	88	72	63	0.88	61	11	3	153	▲7
宇治山田	普通	200	194	▲6	60	176	2.93	66	134	127	0.95	127	7	5	197	▲3
	計	200	194	▲6	60	176	2.93	66	134	127	0.95	127	7	5	197	▲3
伊勢	普通	240	219	▲21	-	-	-	-	240	208	0.87	240	0	0	240	0
	国際科学コース	40	56	16	-	-	-	-	40	79	1.98	40	0	0	41	0
	計	280	275	▲5	-	-	-	-	280	287	1.03	280	0	0	281	0
宇治山田商業	商業	80	87	7	40	87	2.18	44	36	43	1.19	36	0	0	80	0
	情報処理	40	45	5	20	41	2.05	22	18	23	1.28	18	0	0	41	0
	国際	40	39	▲1	20	38	1.90	22	18	17	0.94	18	0	0	40	0
	計	160	171	11	80	166	2.08	88	72	83	1.15	72	0	0	161	0
伊勢工業	機械	80	76	▲4	40	70	1.75	44	36	30	0.83	30	6	3	77	▲3
	電気	40	19	▲21	20	19	0.95	19	21	5	0.24	4	17	2	26	▲14
	建築	40	25	▲15	20	28	1.40	22	18	10	0.56	10	8	2	34	▲6
	計	160	120	▲40	80	117	1.46	85	75	45	0.60	44	31	7	137	▲23
南伊勢 度会校舎	普通	40	13	▲27	20	9	0.45	9	31	4	0.13	4	27	0	13	▲27
	計	40	13	▲27	20	9	0.45	9	31	4	0.13	4	27	0	13	▲27
鳥羽	総合学科	40	44	4	20	44	2.20	22	18	20	1.11	18	0	0	40	0
	計	40	44	4	20	44	2.20	22	18	20	1.11	18	0	0	40	0
志摩	普通	40	31	▲9	20	33	1.65	22	18	10	0.56	10	8	1	33	▲7
	計	40	31	▲9	20	33	1.65	22	18	10	0.56	10	8	1	33	▲7
水産	海洋・機関	40	32	▲8	20	33	1.65	22	18	14	0.78	14	4	1	37	▲3
	水産資源	40	23	▲17	20	23	1.15	21	19	5	0.26	5	14	0	26	▲14
	計	80	55	▲25	40	56	1.40	43	37	19	0.51	19	18	1	63	▲17
伊勢志摩地域(全日制)計		1,160	1,059	▲101	400	757	1.89	423	737	658	0.89	635	102	17	1,078	▲84

※入学者数と合格者数の合計が一致しないことがあるのは、追検査による合格者等を含むため

※「12月時点の進学希望者数」は、県内の国公私立中学校3年生を対象に実施した調査結果による。

伊勢志摩地域の県立全日制高等学校の入学希望者の状況（令和5年3月卒・現高2）

資料2②

学校名	学科・コース	入学		R4.12時点の進学		前期選抜等			後期選抜			再募集			入学者数	定員との差 (欠員)		
		定員	希望者数	定員との差	希望者数	募集定員	志願者数	志願倍率	合格内定者数	募集定員	志願者数	志願倍率	合格者数	募集定員			志願者数	合格者数
明野	生産科学	40	52	12	53	20	53	2.65	22	18	24	1.33	18	0	0	0	40	0
	食品科学	40	50	10	50	20	50	2.50	22	18	24	1.33	18	0	0	0	40	0
	生活教養	40	44	4	43	20	43	2.15	22	18	18	1.00	18	0	0	0	40	0
	福祉	40	40	0	41	20	41	2.05	22	18	17	0.94	18	0	0	0	40	0
	計	160	186	26	187	80	187	2.34	88	72	83	1.15	72	0	0	0	160	0
宇治山田	普通	200	206	6	199	60	199	3.32	66	134	143	1.07	134	0	0	0	200	0
	計	200	206	6	199	60	199	3.32	66	134	143	1.07	134	0	0	0	200	0
伊勢	普通	240	240	0	-	-	-	-	-	240	232	0.97	240	0	0	0	241	0
	国際科学コース	40	51	11	-	-	-	-	-	40	67	1.68	40	0	0	0	40	0
	計	280	291	11	0	0	0	0	0	280	299	1.07	280	0	1	1	281	0
宇治山田商業	商業	120	116	▲4	112	60	112	1.87	66	54	54	1.00	54	0	0	0	120	0
	情報処理	40	38	▲2	38	20	38	1.90	22	18	15	0.83	15	3	0	0	37	▲3
	国際	40	53	13	51	20	51	2.55	22	18	21	1.17	18	0	0	0	40	0
	計	200	207	7	201	100	201	2.01	110	90	90	1.00	87	3	0	0	197	▲3
伊勢工業	機械	80	86	6	85	40	85	2.13	44	36	45	1.25	36	0	0	0	80	0
	電気	40	38	▲2	38	20	38	1.90	22	18	22	1.22	18	0	0	0	40	0
	建築	40	48	8	46	20	46	2.30	22	18	21	1.17	18	0	0	0	40	0
	計	160	172	12	169	80	169	2.11	88	72	88	1.22	72	0	0	0	160	0
南伊勢	度会校舎 普通		27		40	40	26	0.65										
	南勢校舎 普通	80	2	▲51					28	52	8	0.15	6	46	5	5	39	▲41
	計	80	29	▲51	40	40	28	0.65	28	52	8	0.15	6	46	5	5	39	▲41
鳥羽	総合学科	80	37	▲43	40	40	42	1.05	42	38	15	0.39	15	23	12	12	69	▲11
	計	80	37	▲43	40	40	42	1.05	42	38	15	0.39	15	23	12	12	69	▲11
志摩	普通	80	40	▲40	40	40	36	0.90	33	47	6	0.13	5	42	4	4	42	▲38
	計	80	40	▲40	40	40	36	0.90	33	47	6	0.13	5	42	4	4	42	▲38
水産	海洋・機関	40	20	▲20	20	20	24	1.20	22	18	3	0.17	3	15	1	1	26	▲14
	水産資源	40	28	▲12	20	20	25	1.25	22	18	7	0.39	6	12	0	0	27	▲13
	計	80	48	▲32	40	40	49	1.23	44	36	10	0.28	9	27	1	1	53	▲27
伊勢志摩地域（全日制）計		1,320	1,216	▲104	480	480	909	1.89	499	821	742	0.90	680	141	23	22.5	1,201	▲120

※入学者数と合格者数の合計が一致しないことがあるのは、追検査による合格者等を含むため
 ※「12月時点の進学希望者数」は、県内の国公私立中学校3年生を対象に実施した調査結果による。

市町別の中学校卒業生進路先の推移

資料 3

伊勢市の状況

%は、各市町における卒業生数に対する進学者数の割合を表す

卒業年度	卒業生数	全日制高校・高専進学者数	県立					私立			伊勢市内高校		鳥羽	商船	志摩	水産	南伊勢		伊勢市以外	地域外	その他	
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学	度会	南勢											
5年度 (R6.3卒)	975	887	81	174	63	76	70	129	108	24.3%	701	71.9%	12	34	0	3	2	—	51	5.2%	135	88
4年度 (R5.3卒)	1,126	1,072	93	179	108	75	79	154	123	24.6%	811	72.0%	26	30	0	7	17	0	80	7.1%	181	54
3年度 (R4.3卒)	1,082	1,015	78	177	89	70	70	181	133	29.0%	798	73.8%	14	33	2	2	15	0	66	6.1%	151	67
2年度 (R3.3卒)	1,057	1,008	88	170	91	82	82	167	127	27.8%	807	76.3%	15	27	2	1	22	0	67	6.3%	134	49

鳥羽市の状況

卒業年度	卒業生数	全日制高校・高専進学者数	県立					私立			伊勢市内高校		鳥羽		商船	志摩	水産	南伊勢		地域外	その他
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学	伊勢市内高校	鳥羽	度会	南勢								
5年度 (R6.3卒)	106	100	13	10	11	6	7	7	5	11.3%	59	55.7%	14	13.2%	9	2	2	0	—	14	6
4年度 (R5.3卒)	122	113	11	7	7	10	7	10	9	15.6%	61	50.0%	22	18.0%	11	4	0	0	0	15	9
3年度 (R4.3卒)	143	132	9	17	7	12	9	17	15	22.4%	86	60.1%	14	9.8%	9	5	3	0	0	15	11
2年度 (R3.3卒)	149	142	18	16	13	10	20	18	15	22.1%	110	73.8%	14	9.4%	6	0	2	0	0	10	7

志摩市の状況

卒業年度	卒業生数	全日制高校・高専進学者数	県立					私立			伊勢市内高校		鳥羽	商船	志摩		水産		南伊勢		地域外	その他
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学	伊勢市内高校	鳥羽	度会			南勢							
5年度 (R6.3卒)	335	313	38	42	20	18	20	37	25	18.5%	200	59.7%	2	16	27	8.1%	41	12.2%	0	—	27	22
4年度 (R5.3卒)	340	318	33	40	19	34	18	48	17	19.1%	209	61.5%	2	13	38	11.2%	30	8.8%	0	0	26	22
3年度 (R4.3卒)	339	328	37	32	25	27	21	47	12	17.4%	201	59.3%	3	12	46	13.6%	40	11.8%	0	0	26	11
2年度 (R3.3卒)	313	291	26	45	21	22	12	33	10	13.7%	169	54.0%	0	17	47	15.0%	37	11.8%	0	0	21	22

玉城町の状況

卒業年度	卒業生数	全日制高校・高専進学者数	県立					私立			伊勢市内高校		鳥羽	商船	志摩	水産	南伊勢		伊勢市以外	地域外	その他	
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学	伊勢市内高校	鳥羽	度会					南勢					
5年度 (R6.3卒)	145	131	19	8	16	9	12	7	9	11.0%	80	55.2%	2	2	0	1	5	—	10	6.9%	41	14
4年度 (R5.3卒)	147	140	6	19	6	8	8	21	11	21.8%	79	53.7%	3	7	0	0	5	0	15	10.2%	46	7
3年度 (R4.3卒)	150	143	11	10	13	11	9	14	6	13.3%	74	49.3%	4	1	0	0	8	0	13	8.7%	56	7
2年度 (R3.3卒)	145	139	10	16	12	8	13	7	11	12.4%	77	53.1%	3	3	0	0	7	0	13	9.0%	49	6

度会町の状況

卒業年度	卒業生数	全日制高校・高専進学者数	県立					私立			伊勢市内高校		鳥羽	商船	志摩	水産	南伊勢		地域外	その他	
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学	伊勢市内高校	鳥羽	度会校舎					南勢				
5年度 (R6.3卒)	68	60	2	10	8	8	6	8	2	14.7%	44	64.7%	0	2	0	0	4	5.9%	—	10	8
4年度 (R5.3卒)	70	66	7	10	2	6	3	9	4	18.6%	41	58.6%	0	0	0	0	9	12.9%	0	16	4
3年度 (R4.3卒)	69	65	6	9	3	6	7	7	5	17.4%	43	62.3%	0	2	0	0	6	8.7%	0	14	4
2年度 (R3.3卒)	55	49	2	9	6	5	0	4	0	7.3%	26	47.3%	0	5	0	0	8	14.5%	0	10	6

南伊勢町の状況

卒業年度	卒業生数	全日制高校・高専進学者数	県立					私立			伊勢市内高校		鳥羽	商船	志摩	水産	南伊勢		地域外	その他	
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学	伊勢市内高校	鳥羽	度会					南勢校舎				
5年度 (R6.3卒)	52	50	4	5	0	7	8	8	4	23.1%	36	69.2%	0	0	4	3	1	—	—	6	2
4年度 (R5.3卒)	56	52	5	4	6	9	7	5	7	21.4%	43	76.8%	0	0	0	0	2	2	3.6%	5	4
3年度 (R4.3卒)	54	52	4	11	6	6	8	5	5	18.5%	45	83.3%	0	0	0	1	0	2	3.7%	4	2
2年度 (R3.3卒)	59	58	7	4	3	6	2	6	9	25.4%	37	62.7%	0	0	2	1	1	7	11.9%	10	1

* 地域外：伊勢志摩地域の全日制的県立（9校10校舎）と私立（2校）と商船（1校）以外の高校・高専への進学者数
 その他：定時制高校・通信制高校・特別支援学校・各種学校への進学及び就職等の数

令和 6 年度の協議について

1 令和 5 年度の協議

令和 4 年度に協議のまとめを策定し、令和 6 年度の生徒減への対応について、考えをまとめました。令和 5 年度においても、引き続き、令和 4 年 3 月に策定した「県立高等学校活性化計画」に基づき、伊勢志摩地域の高等学校の学びと配置のあり方について、協議しました。

その成果として、「令和 5 年度の協議（今後の学びと配置のあり方について）」を作成し、当協議会における基本的な考え方や各課題における考え方を整理し、今後の当協議会における方針決定のスケジュールや協議の視点を改めて確認することができました。

※詳細は資料 5 「令和 5 年度の協議（今後の学びと配置のあり方について）」を参照

2 令和 6 年度の協議の進め方

昨年度とりまとめた「令和 5 年度の協議（今後の学びと配置のあり方について）」では、令和 8 年度の 1 学級減、令和 10 年度の 3～4 学級減、令和 13～15 年度の 3～5 学級程度の学級減に対し、令和 10 年度の学級減への対応については令和 7 年度までに、令和 13～15 年度の学級減への対応については、令和 10 年度までに、当協議会としての方向性をまとめる必要性が示されました。また、その協議を進めるにあたっては、学校個別ではなく、伊勢志摩地域全体を見渡して、「伊勢市内の高校の再編」と「小規模校のあり方」の 2 つの視点が重要であるとされました。

このことから、今年度も引き続き、これまで議論してきた「15 年先を見すえた高校の学びと配置のあり方」に関する考えを大切にしながら、令和 13～15 年度までに迎える断続的な学級減への対応について、「伊勢市内の高校の再編」と「小規模校のあり方」等の視点をふまえ、より具体の対策について協議を進めていきたいと考えます。

3 今後の協議会開催スケジュール

(1) 令和 6 年度の協議（3 回開催）

○第 1 回協議会（本日 7 月 30 日）

- ・伊勢志摩地域の高等学校を取り巻く状況について
- ・伊勢市内の高校の再編について

○第2回協議会（令和6年11月頃）

- ・他地域のアンケート結果の共有
- ・令和8年度および令和10年度の学級減への対応についての協議①

○第3回協議会（令和7年2月頃）

- ・令和7年度入試に関する情報共有
- ・令和8年度および令和10年度の学級減への対応についての協議②

（2）令和7年度の協議（2～3回開催）

○第1回協議会（令和7年7～8月頃）

- ・「令和7年度のまとめ」（案）の提示
- ・次期活性化計画への反映を意識した協議

○第2回協議会（令和7年11月頃）

- ・「令和7年度のまとめ」を策定
- ・1学級規模の学びについて検証

(令和 5 年度伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会より)

令和 5 年度の協議（今後の学びと配置のあり方について）

（これまでの経緯）

- 本協議会は、平成 17 年に、伊勢志摩地域における高等学校の特色化・魅力化を図り、生徒にとって魅力ある学習環境を整備するため設置されました。
- 本協議会では、令和 4 年度に協議のまとめを策定し、令和 6 年度の生徒減への対応の考え方を取りまとめました。令和 5 年度についても、引き続き、県立高等学校活性化計画（R4～R8）（以下、「計画」という。）に基づき、伊勢志摩地域の高等学校の学びと配置のあり方についての協議を継続しているところです。

（基本的な考え方）

- 令和 4 年度の当地域の出生数は、前年度と比較して 116 人少ない 1,083 人となり、この子どもたちが高校へ入学する令和 20 年度の当地域の 1 学年の総学級数は、令和 6 年度入学生の 29 学級から 11～14 学級程度減少し、15～18 学級程度となることが見込まれます。
- 当協議会は、少子化が一層進む中、当地域の高校の活性化について、令和 4 年度にまとめた「現在の 9 校の配置のままでは当地域の高校生に必要な学びを提供していくことが難しいことから、統合も含めた活性化が必要」、「専門学科の学びの選択肢や普通科の一定規模の維持を基本として対応する」をふまえ、スケジュール感に注意して協議を重ねていきます。

（専門学科・総合学科について）

- 伊勢志摩地域は自然豊かで歴史も古く、県内でも有数の観光地を有しています。また、水産業をはじめ、地域特有の産業も多く存在しています。
- こうしたことも背景にして、伊勢志摩地域には多様な職業系専門学科（農業、工業、商業、家庭、福祉、水産）が設置されており、卒業生の多くがこの地域の産業を支えているため、各学科・コースの学びの選択肢はできる限り維持することが望ましいと考えます。
- 一方、今後の中学校卒業生数の減少を考えると、地域内だけでは多様な学びの選択肢の維持が難しくなることから、生徒の地域間の移動状況もふまえ、これまでより広い地域を視野に入れた議論が必要になると考えます。また、この場合、生徒や保護者の通学に関する負担が増すことが想定されるため、支援などの議論も必要となります。
- また、令和 6 年度には当地域の総合学科が 1 学級となることから、総合学科の特色である「幅広い選択科目の中から生徒が自分で科目を選択し学ぶことが可能であり、生徒の個性を生かした主体的な学習を重視する」との視点から、当地域における総合学科のあり方や活性化について議論が必要です。

（普通科について）

- 当地域では、地域全体に普通科が配置され、それぞれが特色のある多様な学びを提供し、生徒の進学や就職のニーズに応えてきました。
- 少子化の進行により、それぞれの学校の規模も徐々に小さくなり、やむを得ず募集停止となる学校もあるなど、地域の高校の維持が難しい状況となっています。しかし、今後も、進学や就職など多様なニーズに応える普通科の学びの機会を確保していく必要があります。

- このことについては、引き続き、通信制高校のサテライト教室の設置や遠隔授業の活用などの方策を幅広く議論することが必要です。
- 一方、普通科高校には、国公立大学や難関私立大学への進学ニーズに応える役割もあり、こうした普通科高校が当地域に少なくとも1校は必要です。
- 進学ニーズに応える普通科高校は、各教科に配置できる教員数を勘案すると、英語、数学、国語において各学年を複数の教員が担当し、理科、地理歴史・公民において専門性の高い教員を各科目に配置できる1学年8学級規模が望ましいところです。また、地域全体の学級数が減少する中、やむを得ず学校規模を縮小する場合も、1学年6学級を下回らないよう一定規模を維持することが望ましいと考えます。

(部活動)

- 地域の生徒や保護者のニーズが高い部活動については、各学校において特色ある活動を展開していますが、県立高校の部活動の設置数や生徒の部活動への参加状況は、学校規模と相関関係が見られるため、部活動の活性化の視点から1学年4学級以上が望ましいと考えます。

(1学年1～2学級の小規模校について)

- 当地域ではこれまで、高校の小規模化が進む中、特に地域に所在する学校を中心に、関係する市町が学校と連携して生徒の学びを支えてきました。
- 前計画(H29～R3)では、地方創生の考え方をふまえ、高校と地域や産業界が協力した取組を進める中、特に、小規模校においては学校ごとに市町関係者や地元産業界などで構成する協議会を設置し、学校の活性化に取り組みました。
- 対象となる学校では、地域の協力を得て「地域を学びの場とした学校独自の協働的な学習」に取り組むことにより、生徒の地域への理解が深まりました。また、継続的な習熟度別の学習指導等による基礎学力の定着や地域の支援を受けた学習等を通じ、生徒の進路実現が図られました。
- 一方で、地域の中学校卒業者の大幅な減少の影響もあり、地元への就職者数は減少するとともに、小規模校全体の入学者数と定員充足率は活性化取組前よりも低下しました。
- 現在、当地域では、現計画(R4～R8)においても、引き続き、学校と地域が連携して小規模校における学びの充実に取り組んでいますが、地域の少子化はより進行しており、学校規模はより小さくなるだけでなく、やむを得ず募集停止となった校舎もあります。
- また、令和6年度に1学年1学級となる学校では、教科指導の充実や部活動の活性化がより厳しくなることが想定されますが、地域全体で学校を支えながら、小規模校のメリットを生かして、できる限り子どもたちに魅力ある学びを提供していく必要があります。
- 令和4年度の当協議会のまとめでは、「令和6年度の生徒減については、学級減で対応することが望ましい」としましたが、今後も続く段階的な生徒減に対しては、令和6年度に1学年1学級となる3校の役割や教育実践を注視しながら、引き続き、地域全体の活性化を協議する中で、小規模校の統合も含めた今後のあり方について議論を進める必要があります。
- なお、現計画では、他の高校では担うことが難しい県内唯一の学科を有する水産高校について、引き続き、活性化に取り組むとされています。令和6年3月には新実習船「しろちどり」が竣工されますが、一方で、令和元年度以降5年連続して欠員を生じており、特に地域外からの入学者の増加に向けたさらなる取組が必要です。

(今後の協議の進め方)

- 今後も当地域では少子化が進行し、令和8年度に1学級、令和10年度に3～4学級、令和13～15年度に3～5学級程度の減が見込まれています。これらの学級減に対し、高校の統合を含めた対応を行う場合は、中学生の進路選択への影響等を勘案すると、遅くともその3年前までには、教育委員会において方針を定めることが求められます。そのため、令和10年度の学級減への対応については令和7年度までに、令和13～15年度の学級減への対応については令和10年度までに、当協議会としての方向性をまとめる必要があります。
- なお、専門高校間の統合など、大規模な施設・設備の整備が必要となる統合については、工期の確保はもとより、予算やそれにつながる学校のコンセプトの議論に係る時間も必要となるため、遅くとも4年前までには結論を出す必要があります。
- これからも現計画のもと、当協議会では引き続き、「現在の9校の配置のままでは当地域の高校生に必要な学びを提供していくことが難しいことから、統合も含めた活性化が必要」、「専門学科の学びの選択肢や普通科の一定規模の維持を基本として対応する」を基本として協議を進めることとします。
- また、少子化の進行と現在の高校の状況をふまえ、学校個別ではなく、伊勢志摩地域全体を見渡して、「伊勢市内の高校の再編」と「小規模校のあり方」の2つの視点から高校の活性化について協議を進めるとともに、現在の協議が令和9年度からの次期計画につながることも意識しながら、これからの子どもたちのための伊勢志摩地域の学びと配置のあり方について協議を重ねていきます。

伊勢志摩地域 中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)

資料6

令和6年5月1日 教育政策課調べ

	R 3.3	R 4.3	R 5.3	R 6.3	R 7.3	R 8.3	R 9.3	R 10.3	R 11.3	R 12.3	R 13.3	R 14.3	R 15.3
	卒業生数	卒業生数	卒業生数	卒業生数	現中3	現中2	現中1	現小6	現小5	現小4	現小3	現小2	現小1
伊勢市	卒業生数	1,057	1,082	1,126	975	997	1,020	966	897	945	899	862	787
	前年度対比		25	44	-151	-31	23	-54	-69	48	-46	-37	-75
	R5.3対比					53	22	45	-9	-78	-30	-76	-113
度会郡	卒業生数	308	315	337	311	294	293	262	270	268	284	238	250
	前年度対比		7	22	-26	-24	-1	-31	8	-2	16	-46	12
	R5.3対比					7	-17	-49	-41	-43	-27	-73	-61
鳥羽市	卒業生数	149	143	122	106	111	98	94	106	85	98	81	91
	前年度対比		-6	-21	-16	-8	-13	-4	12	-21	13	-17	10
	R5.3対比					13	5	-8	0	-21	-8	-25	-15
志摩市	卒業生数	313	339	340	335	313	302	238	283	273	246	244	210
	前年度対比		26	1	-5	30	-11	-64	45	-10	-27	-2	-34
	R5.3対比					-52	-22	-33	-97	-52	-89	-91	-125
小計	卒業生数	1,827	1,879	1,925	1,727	1,715	1,713	1,560	1,556	1,571	1,527	1,425	1,338
	前年度対比		52	46	-198	21	-33	-2	-153	-4	-44	-102	-87
	R5.3対比					21	-12	-14	-167	-171	-200	-302	-389
県内合計	卒業生数	15,777	16,244	16,055	15,891	15,712	15,488	14,769	14,404	14,000	14,049	13,442	12,792
	前年度対比		467	-189	-164	-179	-224	-472	-365	-404	49	-607	-650
	R5.3対比					-179	-403	-650	-1,122	-1,487	-1,842	-2,449	-3,099

【県立高校(全日制)】

伊勢市内	入学定員 (学級数)	960 (24)	960 (24)	1,000 (25)	960 (24)	960 (24)
	欠員数※	3	1	3	33	200
	入学定員 (学級数)	320 (8)	320 (8)	320 (8)	200 (5)	200 (5)
伊勢市以外	入学定員 (学級数)	1,280 (32)	1,280 (32)	1,320 (33)	1,160 (29)	1,160 (29)
	欠員数※	120	130	120	84	
	入学定員 (学級数)	10,760 (271)	10,880 (274)	10,640 (268)	10,440 (263)	10,240 (258)
県内合計	入学定員 (学級数)	325	334	342	207	
	欠員数※					
	入学定員 (学級数)					

【私立高校(全日制)、高专】

皇學館	入学定員	315	315	315	315	315
	入学者数	323	353	327	288	-
伊勢学園	入学定員	220	230	230	230	230
	入学者数	283	274	289	260	-
鳥羽商船	入学定員	120	120	120	120	140
	入学者数	128	120	120	122	-
3校の欠員数(合計)		-79	-82	-71	5	-

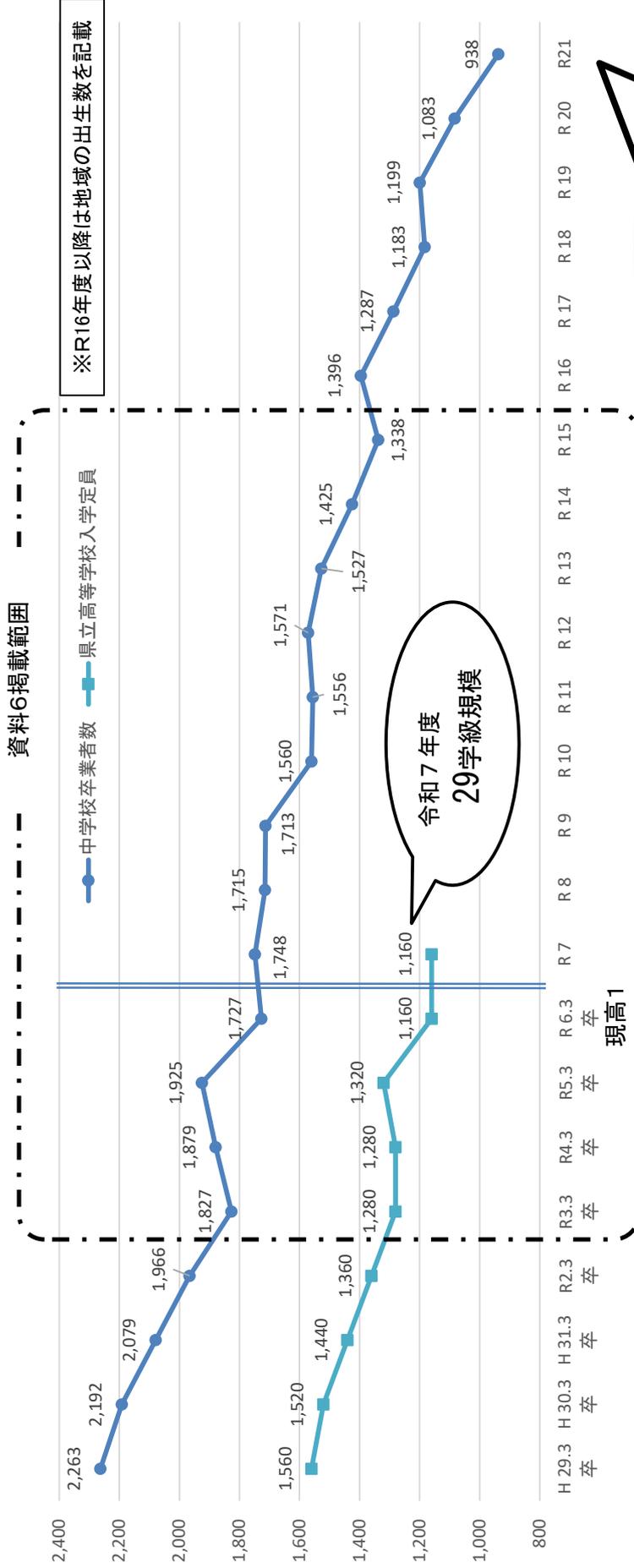
(参考)

三重	入学定員	530	540	535	530	530
	入学者数	548	584	563	468	-

※欠員数は、学科・コースごととの欠員のみを積み上げた数値

※欠員数の(-)は、定員を超過した入学者数を示す。

伊勢志摩地域の中学校卒業者と県立高等学校入学定員の推移と予測



伊勢志摩地域の出生数

	H29年度出生 現小1	H30年度出生 5~6才	R1年度出生 4~5才	R2年度出生 3~4才	R3年度出生 2~3才	R4年度出生 1~2才	R5年度出生 0~1才
伊勢市	814	883	811	761	744	705	601
鳥羽市	94	98	83	65	88	56	57
志摩市	227	209	205	177	167	145	126
度会郡	230	206	188	180	200	177	154
合計	1,365	1,396	1,287	1,183	1,199	1,083	938

伊勢志摩地域および松阪地域の高等学校等の学科・コースについて(令和7年度)

資料 8

伊勢志摩地域全日制課程		松阪地域全日制課程	
学校名	入学定員	大学科	入学定員
県立 宇治山田高校	200	普通科	200
県立 伊勢高校	280	普通科	280
県立 伊勢工業高校	160	専門学科	160
県立 宇治山田商業高校	160	専門学科	160
県立 明野高校	160	専門学科	160
県立 南伊勢高校	40	普通科	40
県立 鳥羽高校	40	総合学科	40
県立 志摩高校	40	普通科	40
県立 水産高校	80	専門学科	80
私立 皇学館高校	315	普通科	315
私立 伊勢学園高校	230	普通科	230
		普通科:315人、進学コース・特別進学コース	545
		普通科:230人、特別進学コース・選択コース(情報ビジネス・生活デザイン・進学)・看護医療コース	

全29学級
 普通科 14
 専門学科 14
 (工業4)
 (商業4)
 (農業2)
 (家庭1)
 (福祉1)
 (水産2)
 総合学科 1

伊勢志摩地域
 中学校卒業者数
 R7.3卒 1,748人

- 定時制課程 県立 伊勢まなび高校 120人
- 通信制課程 私立 英心高校(伊勢本校) 110人
- 私立 代々木高校 800人
- 高等専門学校 国立 鳥羽商船高等学校 140人
- 商船学科(40)、情報機械システム工学科(100)

(参考)

松阪地域全日制課程		伊勢志摩地域全日制課程	
学校名	入学定員	大学科	入学定員
県立 松阪高校	280	普通科	280
県立 松阪工業高校	200	専門学科	200
県立 松阪商業高校	160	専門学科	160
県立 飯南高校	80	総合学科	80
県立 相可高校	200	普通科 専門学科	200
県立 泉学園高校	80	総合学科	80
私立 三重高校	530	普通科	530
		普通科(進学コース、特進コース、六年制) : 530人	

全25学級
 普通科 9
 専門学科 12
 (工業5)
 (商業4)
 (農業2)
 (家庭1)
 総合学科 4

松阪地域
 中学校卒業者数
 R7.3卒 1,879人

※大学科の普通科には普通科系専門学科を含む

県立高等学校(全日制)の学級数の状況(令和7年度)

資料9

地域名	入学定員 (R7.3卒業生見込数)	40人ベースの学級数								学校数
		1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	
桑名	1,200 (1,985)		桑名北(普) 桑名工業(工)					桑名西(普) いなへ総合学園(総)	桑名(普・理・看)	5校 (30学級)
四日市	2,520 (3,446)		朝明(普・福) 四日市四郷(普) 菰野(普)		四日市西(普) 四日市中央工業(工) 四日市農芸(農・家)		四日市商業(商)	川越(探・国) 四日市工業(工)	四日市(普) 四日市南(普)	11校 (63学級)
鈴鹿	1,120 (2,267)		飯野(応子・英) 稲生(普・体)		亀山(普・情・家)		白子(普・家)▲1	神戸(普・理)▲1		6校 (28学級)
津	1,880 (2,535)		白山(普・商)		久居(普)		津東(普)▲1 津商業(商) 津工業(工) 久居農林(農・家)		津(普) 津西(普・国)	8校 (47学級)
松阪	1,000 (1,879)		飯南(総) 鼎学園(総)		松阪工業(工) 相可(普・農・家)			松阪(普・理)		6校 (25学級)
伊勢志摩	1,160 (1,748)	南伊勢 度会校舎(普) 鳥羽(総) 志摩(普)	宇治山田 商業(商) 伊勢工業(工) 明野(農・家・福)		宇治山田(普)			伊勢(普)		9校 (29学級)
伊賀	1,000 (1,437)		あけぼの学園(総)		名張(総)		上野(学探・理) 伊賀白鳳※ (商・工・農・福) 名張青峰(普)			5校 (26学級※)
東紀州	360 (415)		尾鷲※(普・商・工)		熊野青藍△5※					2校 (10学級※)
学校数		3校 (3学級)	12校 (49学級※)	0校 (0学級)	10校 (50学級)	9校 (55学級※)	7校 (49学級)	5校 (40学級)	52校 (258学級※)	

※伊賀白鳳高校は、240人定員、7学級で募集

※尾鷲高校は、160人定員、5学級で募集

※熊野青藍高校を新設(木本校舎:普通科3学級+総合学科1学級、紀南校舎:総合学科3学級+総合学科1学級)と紀南高校(普通科2学級)は募集停止

※△:前年度比増、▲:前年度比減

伊勢志摩地域の県立全日制高校卒業生の進路状況

資料10

(1) 令和6年3月卒

学校名	学科	四年制大学	短大等	専門学校等	就職	その他	卒業者数
明野	農業 家庭 福祉	12	15	37	81	5	150
		8.0%	10.0%	24.7%	54.0%	3.3%	100.0%
宇治山田	普通	169	7	11	2	4	193
		87.6%	3.6%	5.7%	1.0%	2.1%	100.0%
伊勢	普通	239	1	4	1	28	273
		87.5%	0.4%	1.5%	0.4%	10.3%	100.0%
宇治山田商	商業	73	7	31	40	3	154
		47.4%	4.5%	20.1%	26.0%	1.9%	100.0%
伊勢工	工業	18	4	21	113	1	157
		11.5%	2.5%	13.4%	72.0%	0.6%	100.0%
南伊勢 (度会・南勢)	普通	4	1	6	21	3	35
		11.4%	2.9%	17.1%	60.0%	8.6%	100.0%
鳥羽	総合	3	4	8	24	0	39
		7.7%	10.3%	20.5%	61.5%	0.0%	100.0%
志摩	普通	6	4	17	22	0	49
		12.2%	8.2%	34.7%	44.9%	0.0%	100.0%
水産	水産	2	17	8	29	2	58
		3.4%	29.3%	13.8%	50.0%	3.4%	100.0%

普通科計	418	13	38	46	35	550
	76.0%	2.4%	6.9%	8.4%	6.4%	100.0%
専門学科計	105	43	97	263	11	519
	20.2%	8.3%	18.7%	50.7%	2.1%	100.0%
総合学科計	3	4	8	24	0	39
	7.7%	10.3%	20.5%	61.5%	0.0%	100.0%
合計	526	60	143	333	46	1,108
	47.5%	5.4%	12.9%	30.1%	4.2%	100.0%

※上段は人数、下段は卒業者数に対する割合を表す

※「四年制大学」は大学校を含む

※「短大等」は専攻科、高専を含む

※「その他」は進学待機を含む

(2) 令和5年3月卒

学校名	学科	四年制大学	短大等	専門学校等	就職	その他	卒業者数
明野	農業 家庭 福祉	13	26	47	60	1	147
		8.8%	17.7%	32.0%	40.8%	0.7%	100.0%
宇治山田	普通	203	10	11	2	7	233
		87.1%	4.3%	4.7%	0.9%	3.0%	100.0%
伊勢	普通	240	6	6	0	21	273
		87.9%	2.2%	2.2%	0.0%	7.7%	100.0%
宇治山田商	商業	85	9	48	55	0	197
		43.1%	4.6%	24.4%	27.9%	0.0%	100.0%
伊勢工	工業	16	1	13	122	1	153
		10.5%	0.7%	8.5%	79.7%	0.7%	100.0%
南伊勢 (度会・南勢)	普通	5	1	8	32	0	46
		10.9%	2.2%	17.4%	69.6%	0.0%	100.0%
鳥羽	総合	5	2	11	36	0	54
		9.3%	3.7%	20.4%	66.7%	0.0%	100.0%
志摩	普通	13	2	21	26	0	62
		21.0%	3.2%	33.9%	41.9%	0.0%	100.0%
水産	水産	0	14	3	34	1	52
		0.0%	26.9%	5.8%	65.4%	1.9%	100.0%

普通科計	461	19	46	60	28	614
	75.1%	3.1%	7.5%	9.8%	4.6%	100.0%
専門学科計	114	50	111	271	3	549
	20.8%	9.1%	20.2%	49.4%	0.5%	100.0%
総合学科計	5	2	11	36	0	54
	9.3%	3.7%	20.4%	66.7%	0.0%	100.0%
合計	580	71	168	367	31	1,217
	47.7%	5.8%	13.8%	30.2%	2.5%	100.0%

令和6年度 明野高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- 農業、衣・食、福祉の専門高校として、それぞれの分野の専門的知識・技能の習得に取り組み、卒業後に実社会で活躍できるように主体的に行動できる人材の育成
- 地域産業との連携を推進し、地域から信頼されるとともに、地域から必要とされる人材の育成

2 学校の特色（生産科学科1学級＋食品科学科1学級＋生活教養科1学級＋福祉科1学級）

- 本校は、創立以来140有余年という長い歴史を有し、農業関係学科と家庭関係学科を中心に発展してきました。平成31年度より農業学科（生産科学科、食品科学科）、家庭学科（生活教養科）、福祉科の4学科の募集となり、実学を中心に地域に貢献できる社会人の育成に力を注いでいます。本校では、広大な敷地と緑豊かな学習環境の中で、課題研究や資格取得をめざして生徒たちが意欲的に学習に取り組んでいます。平成29年度から農業生産工程管理JGAP、グローバルGAP、ASIA GAP等の認証を取得しました。また放課後の部活動や、農業クラブ・家庭クラブなどの活動をとおして地域連携に励む生徒など、様々な分野に精力的に取り組む、明るく活気のある生徒がたくさん学んでいます。

<農業学科>

生産科学科では食料生産を中心とした農業生産に関する知識や技術を習得するとともに、現代の農業・農業関連産業を支え、農業の各分野で活用できる能力と態度を育成します。食品科学科では食品の加工・貯蔵・品質管理および食品衛生に関する知識や技術を総合的に学びます。将来食品業界や関連産業で貢献できる人間性豊かな能力と態度を育成します。

<生活教養科>

衣・食を中心とした家庭生活に関わる様々な分野の知識や教養を身につけ、健康で豊かな家庭生活を営める力および生活産業を支える人材を育成します。

(ア) デザインコース

ファッションデザイン・被服製作・課題研究の中で衣生活に関する基礎的・専門的な知識と技術を習得します。作品としてはシャツ、ジャケット、ゆかた、ドレスなどを製作しています。また、家庭科技術検定などの各種検定の取得や地域との交流なども取り入れています。

(イ) 調理コース

調理・食品・食文化・課題研究といった授業をとおして調理や栄養など食分野の専門知識や基礎的技術の習得をめざします。また外部講師による講習会も多く実施しています。

<福祉科>

福祉に関する専門科目を学び、地域の福祉分野で活躍する人材を育成します。

(ア) 社会福祉コース

多様化する社会福祉に対応できる福祉の基礎を学習します。

- ・ 保育所、障がい者・障がい児、高齢者福祉施設での実習
- ・ 福祉系、保育系大学・短大・専門学校への進学を視野に入れた専門教科の学習

(イ) 介護福祉コース

介護のスペシャリストとしての専門知識・技術を習得します。

- ・ 介護福祉士の国家試験の受験資格取得および介護福祉士国家試験 100%合格をめざしています。
- ・ 地域の高齢者福祉施設での実習による実践的介護技術の習得をめざします。

令和 6 年度 宇治山田高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- ◎生徒の自主性を尊重し、生徒が互いに協力し合い高め合う教育活動を通して、知性と教養、豊かな人間性を育み、進路希望を実現する学校

2 学校の特色（普通科 5 学級）

◎歴史と伝統

- 『山高』の愛称で親しまれている「三重県立宇治山田高等学校」は、旧制宇治山田中学校と旧制宇治山田高等女学校の歴史と伝統を受け継ぎ、各界で活躍する卒業生を数多く輩出してきた、創立 125 年を迎える進学校です。未来を担う生徒たちは、自主・自律の校訓、文武両道の伝統のもと、日々豊かで充実した高校生活を送っています。

◎主な特色

- 進路実現に向け、モチベーションを継続する学習・進路指導
- ・質の高い豊富な授業時間数
週 3 回の 7 限授業
 - ・きめ細かな学習指導
英語・数学は、原則少人数の習熟度別授業を実施
 - ・学力向上のサポート
多様な進学向け課外授業
 - ・個々に応じた進学指導
進路希望に応じた柔軟なクラス編成（各学年 5 クラス規模）
※令和 6 年度・・・1 年生：6 クラス展開（前期クラス 2・後期クラス 4）
2・3 年生：5 クラス展開（選抜クラス 2 クラス設置）
- 自主・自律の校訓
生徒の主体性を大切にした学校行事
- 文武両道の推進
運動系・文化系クラブ 29 部
- 前期入試と後期入試を設定

◎山高進学の特徴

- 1 現役での進学率が高い 98%
- 2 東海・関西地方への進学が多い 90%
- 3 文系・教育系の進学に強い
- 4 医療系（看護、理学・作業療法、放射線技師等）の進学に強い

☆多様な機関と連携した学びに取り組んでいます。

- 探究活動において、地域の課題をテーマに研究を進める生徒がおり、地域の商店街等に調査に出かけるなどしています。伊勢市高校生議会へも参加しています。
- 令和 4 年度から、県事業「オンラインとリアルによる学校の枠を越えた学びの推進事業」に取り組み、地域を学び場とした PBL 活動を推進しています。
- 外部講師を招き、探究活動やキャリア学習を進めています。（三重大学、皇學館大学、県立看護大学等からの講師）

令和 6 年度 伊勢高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

「生徒、保護者、地域の期待に応え、信頼される魅力ある進学校を目指します」

- 高い志を抱いて、社会に貢献できる人を育てます。
- 自己の実現のために、自ら学び、考え、行動し、粘り強く努力する人を育てます。
- 知的探究心にあふれ、情操豊かで創造性に富んだ人を育てます。

2 学校の特色（普通科 6 学級＋国際科学コース 1 学級）

本校の教育方針は、「生徒個々の自立を促し、知的探究心に溢れた、情操豊かで行動力のある人間を育てる」ことにあります。校章の 3 つの菱形は「知識、情操、行動」の円満な人間形成を表しています。

◎人間形成の場として

- 自主自律の精神と自由な校風です。自ら考え、自らの行動を厳しく律してこそ自由を謳歌できることを学び取ることができます。
- 体育祭、文化祭、クラスマッチなど多彩で盛り上がる行事があります。
- 担任との面談週間が年 4 回あり、学習・進路・生活面のサポート、補習・課外授業等教科のサポートも充実しています。

◎充実した学習指導

本校の教育の基本は「授業第一主義」です。「毎日の真剣な授業の積み重ねこそが真の学力になり得る」をモットーとし、生徒と教員が一体となって真剣に授業に取り組んでいます。また、45 分の 7 限とすることで、国語・数学・英語の 3 教科はほぼ毎日授業があり、基礎学力の定着に効果をあげています。

- 普通科のみで、各学年 7 クラスと南勢志摩地域では最大規模の県立高校です。
- 令和 5 年度入試での国公立大学現役合格者延べ数は、京大 3 名、名古屋大 7 名、医学部医学科 6 名などの難関大学・学部を含め 118 名でした。また、地元の三重大は 46 名でした。
- 過去 3 年間では陸上競技、弓道、軟式野球、バドミントン、卓球、フェンシング、囲碁、将棋が県代表として活躍するなど部活動も盛んな学校です。
- 「学校の雰囲気がよく、楽しい」と思う生徒が 90%を超える、満足度の高い学校です。
- 文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受け、13 年目の取組をしています。科学技術に携わる人材育成から、幅広く探究的に物事をとらえ、学問に生かす活動をしています。
- ※令和 3 年度「日本学生科学賞」で最高賞の内閣総理大臣状賞を受賞。国際コンクールでも 3 位入賞。科学の甲子園全国大会出場。

令和6年度 宇治山田商業高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- 「健康明朗・自律協同・誠実勤勉」の校訓のもと、生徒の自立を促し、変化する実社会で活躍できる基礎を育む学校

2 学校の特色（商業科2学級＋情報処理科1学級＋国際科1学級）

（1）商業科（3年2学級、2年3学級、1年2学級）

- ビジネスに関する幅広い知識と技術を習得し、より専門的な知識や技術を備えた人材を育成します。
- 簿記、情報処理などのビジネスに関する幅広い資格取得を進め、卒業後の進路実現をめざします。

（2）情報処理科（各学年1学級）

- 進展する情報化社会において、情報を処理・分析し、情報機器を活用した業務改善が提案できる人材を育成します。
- ITパスポート、基本情報技術者等の国家資格を中心に、簿記などのビジネスに関する資格取得を進め、卒業後の進路実現をめざします。

（3）国際科（各学年1学級）

- 多角的な英語の授業により実践的なコミュニケーション能力を身につけるとともに、簿記や情報処理などビジネスに関する知識や技術を習得し、国際社会で活躍できるグローバルな人材を育成します。
- 実用英語検定をはじめ、簿記などのビジネスに関する幅広い資格取得を進め、卒業後の進路実現をめざします。

【探究型活動】

3年次には、全学科共通の「課題研究」の授業において、生徒がテーマを設定し、「観光」、「ビジネスプラン」をはじめ、行政や企業とも連携した探究的な学習に取り組んでいます。また、東北大学と連携した地域活性化につながる「未来創造プロジェクト」にも参加するなど、他の機関との連携した学びの場にも積極的に参加しています。

【活発な部活動】

ほとんどの生徒が部活動に取り組んでおり、運動部・文化部ともに活発に活動し、多くの部が全国レベルの成果をあげています。今春は、野球部が16年振りの選抜甲子園大会に出場しました。

【充実した学校行事】

秋の「山商ウィーク」として実施する「体育祭」、「山商祭（文化祭）」をはじめ、「マラソン大会」、「クラスマッチ」、「部活等の壮行会」など、たくさんの学校行事が高校生活に彩りを添え、仲間意識とともに母校愛を育んでいます。

令和6年度 伊勢工業高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

○活気ある工業高校 「高志」ある生徒

地元企業の基盤を支える技術者の育成を軸に、一人ひとりの生徒が望む進路の完全保障を実現する工業高校

- ・ 基本的な生活習慣を着実に身につけた、社会常識のある明るく素直で積極的な生徒の育成（ひとづくり）
- ・ 産業界から求められる確かな技術・技能を身につけようと意欲に満ちて励む生徒の育成（ものづくり）
- ・ 自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒の育成

2 学校の特色（機械科2学級＋電気科1学級＋建築科1学級）

明治29年（1896年）造船技術を学ぶ「大湊工業補習学校」として開校以来、百三十年近い歴史と伝統をもち、卒業生は1万5千人を超え、今までに地元企業を中心に産業界に数多くの有為な人材を輩出しています。求人数は卒業予定者数の約10倍あり、南勢地区唯一の工業高校として地元企業から人材を求められる学校です。

近年の急速な技術革新等、大きな社会の変化に応じて求められる知識や技術を十分に把握しながら、生徒が専門的な技術・技能を習得し「課題解決力」を備えた意欲的な生徒を育てています。令和6年度からは高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）の指定を受け、DXのものづくり人材を視野に入れた取組をしています。

卒業後に企業に求められる資質・能力を育成するため、実験・実習などは10人で1班の少人数指導を実施し、一人ひとりの能力・適性に応じた教科指導を行っており、令和5年度6月のG7三重・伊勢志摩交通大臣会合において、各国大臣への地酒贈呈用に建築科の生徒が授業で木箱を製作し、高い専門性を世界に示したところです。

また、生徒の「ものづくり」の視野を広げるため、各種資格取得に向けた学習ができるよう校内体制づくりに努めるとともに、各科でスペシャリストを育成しており、「ものづくりコンテスト」県大会において令和4年度は木工加工部門、令和5年度は電気工事部門、令和6年度は溶接部門で三重県代表になりました。

令和3年度より地域で「高校生工務店」として活動を始め、地域の「困りごと」を工業高校生が「ものづくり」で解決しています。これは、伊勢志摩地域の皆さまが困っている案件を、各科の生徒が「ものづくり」の観点から課題を見出し、解決する活動です。この活動をとおして、生徒の「ひとづくり」も達成しており、伊勢度会地区交通安全対策協議会主催の「交通安全教室・未来へのかけはし運動」等に協力しています。

部活動も盛んで、全校生徒の約80%が11の運動部、7つの文化部に所属して活動しています。運動部は、毎年県高校総体において総合成績は上位に入っています。硬式野球部、ソフトテニス部、陸上競技部、バドミントン部を始めとする各クラブが県内の大会において顕著な成績を残しています。文化系では、ロボット部、機械研究部、建築研究部、電気研究部の工業高校の特色を活かした部活動に加えて、吹奏楽部、茶道部、美術部等があります。令和4年度には、建築研究部の1年生女子生徒が、第68回工校生デザインコンクール（日本建築協会主催）で最優秀賞に輝きました。1年生が最優秀賞（日本一）を受賞するのは68年の大会史上初の快挙です。令和5年度は「建築甲子園」（日本建築士会連合会など主催）で4位に健闘しています。

進路実績は、おおよそ7割が就職し、伊勢志摩地域、三重県、東海地方と、この地域でものづくりを担うスペシャリストとして活躍しています。3割の進学した生徒は、さらなる資格取得を目指しており、その中で、ほぼ毎年卒業生が教育実習で教壇に立っています。

令和6年度 南伊勢高校度会校舎（全日制）の特色

1 めざす学校像

◎自らの力で自分の将来を切り開き、地域社会に貢献する“ひと”を育成する学校

●育みたい生徒像

- 自立に向け、基本的な生活習慣と基礎学力を身につけた生徒
- 自分の夢を明確にし、希望する進路に向け、自ら努力し続ける生徒
- 自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒

2 学校の特色（普通科1学級）

◎本校の特色ある学習内容

- (1) 度会町社会福祉協議会との交流「福祉体験学習」「クリスマス会」等
- (2) 特別支援学校との交流「総合的な探究の時間での交流」
- (3) 環境ボランティア活動「地域清掃（草刈り、ゴミ・空き缶拾い）」
- (4) 様々な体験講座「茶摘み」「心肺蘇生法」「交通安全教室」等
- (5) 様々な講演会「人権教育」「地域活動」「進路」「国際教育」等
- (6) 小中学校等との交流「出前授業」「図書館開放」「高校生活入門講座」「進路説明会」等
- (7) 近隣ケアハウスとの交流「出前図書館」「総合的な探究の時間での交流」等
- (8) 森林組合での体験・交流「総合的な探究の時間での体験・交流」

本校では、地元の皆様の支援をいただきながら、以上のような体験的・課題解決的な授業を行い、これからの社会を生き抜く力の育成に取り組んでいます。

令和6年度も、地元茶園のご協力による茶摘み体験（度会小学校・度会中学校と合同で実施）、度会町教育委員会と協働した図書館開放イベント（地元保育所・小学校の園児・児童が来校）、ケアハウスへの「出前図書館」（本校の蔵書を持参し、貸出）などを実施しました。総合的な探究の時間における、度会町社会福祉協議会・度会特別支援学校・いせしま森林組合・棚橋保育所等、地域の様々な団体との交流活動も例年通り実施しています。今後は度会町商工会・度会町役場と連携して、地域の祭りにも参画する予定です。

また、国際教育として、G7三重・伊勢志摩交通省会合に伴う「国際理解・国際交流出前授業」を活用した学習を実施しました。

◎全教職員による、一人ひとりの生徒へのきめ細かな関わり

本校では、一人ひとりの個性や能力に応じたきめ細かな関わりを大切にしています。授業などの学習指導における関わりだけでなく、生徒の日々の悩み事などを全教職員がそれぞれの関係性の中で受けとめ、連携して支える雰囲気があります。また、進路実現に向けた様々な学習も全校体制で指導・支援しています。

そういった教職員の関わりは、学習活動・部活動の活性化にもつながっています。学習活動においては、基礎学力の向上、各種資格取得等に成果が現れています。部活動においては、戦績として目立ったものはなくとも、教職員の支援のもと部員が少ない中で工夫して練習し、互いを思いやり支え合いながら人間的に成長していく生徒の姿が随所に見られます。

令和6年度 南伊勢高校南勢校舎（全日制）の特色

1 めざす学校像

◎「自らの力で自分の将来を切り開き、地域社会に貢献する“ひと”を育成する学校」

●育みたい生徒像

- 自立に向け、基本的な生活習慣と基礎学力を身につけた生徒
- 自分の夢を明確にし、希望する進路に向け、自ら努力し続ける生徒
- 自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒

2 学校の特色（普通科 ※令和6年度入学者選抜より募集を停止し、在校生は度会校舎での学びを多く取り入れた授業を展開しています。）

本校舎は伊勢志摩国立公園内のリアス海岸沿いに立地し、夕暮れ時は教室からオレンジ色に染まる五ヶ所湾がみえるロケーションにあります。小規模校であることをメリットに、よくまとまっており、アットホームな雰囲気の中で、明るく伸び伸びと高校生活を送っています。南勢校舎の生徒の度会校舎への通学方法は、主にバスおよびタクシーを使用しています。

●コース学習について

「地域創生アドバンスコース」と「ベーシックコース」の2コースに分かれ、授業を行っています。少人数で授業を受けることができ、学力をつけることができます。

- ①「地域創生アドバンスコース」…地域創生を担う人材の育成を目的とし、大学・短大・高等看護学校等への進学、および公務員をめざすコースです。
- ②「ベーシックコース」…就職時や専門学校での学習に不可欠な学力を身につけられるよう、基礎的な内容をしっかり学習するコースです。

※コース共通選択科目…地元食材を使った調理実習や福祉関係のことを体験学習する「地域と生活」、近隣のヨットハーバーでディンギー(小型ヨット)やシーカヤックの操船等を習得する「スポーツV (ファイブ)」等を開設しています。

※令和4年度入学生からはコース分けを行っておりませんが、選択幅の広いカリキュラムを設定しています。

◎本校は『地域社会との連携・協働』を大切にしています！

- 南伊勢町・地域産業界・大学等と連携して「地域創生」に係る授業を開設し、町長・大学教授等による講話やフィールドワーク、インターンシップ等を通じて、地域リーダーの育成をめざします。
- 地域や三重大学等と連携した様々な防災教育や啓発活動を実践しています。
平成30年度に学校で初めて「みえの防災大賞」受賞。令和元年度には消防庁の防災まちづくり大賞「消防庁長官賞」を受賞。そして、令和4年度には「令和4年防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞。
- 高校生が地域資源（ひと、モノ、自然、歴史、名所旧跡、産業等）を活用し、地域（まち）の課題をビジネスの手法を用いて解決していこうという取り組み「SBP」を推進しており、南伊勢町からも支援をいただいています。
※「SBP (Social Business Project)」は本校舎が発祥です。

令和6年度 鳥羽高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- これからの地域社会をささえる若者が育ち合う学校
～子どもたちが地域の中で生き生きと活躍し、自信と誇りを持って成長する～

2 学校の特色（総合学科1学級）

- ・創設113年目を迎え、卒業生は18,000人を超える歴史と伝統のある高等学校
- ・国際観光都市である鳥羽市に一つしかない公立高等学校
- ・南勢地区に一つしかない総合学科を設置する高等学校

<学び>

- ・基礎基本を大事にし、個々の進学希望に応じた主体的な高等教育
- ・社会的自立に必要な規範意識と態度
- ・行動力やコミュニケーション能力を身につけるための体験的な活動 等

<学習や体験>

- ・学びの基礎診断、基礎力養成講座、少人数教育
- ・探究学習（産業社会と人間、総合的な探究の時間、鳥羽学）
- ・系列授業、自由選択科目、就業体験学習（観光・福祉）
- ・人権ロングホームルーム、部活動、交流（国際・他県高校生・地域小中学生）等

3 総合学科3系列の内容（2年次から系列選択）

- 1) 観光ビジネス系列【企業の即戦力をめざす】
 - ・情報処理やビジネスの基本、観光地鳥羽の魅力、商品開発などを学びます。
- 2) 総合福祉系列【福祉のスペシャリストをめざす】
 - ・福祉・保育施設等での体験実習、高齢者などへの援助の方法などを学びます。
 - ・介護職員初任者研修の資格取得をめざします。
- 3) 人文教養系列【個々に応じた進路希望をめざす】
 - ・少人数講座が多く、一人ひとりの学習状況・進路希望に応じて学びます。
 - ・進学するために必要な学力から発展的な学力まで、幅広く身につけます。

4 多くの地域連携と特色ある授業、取組

- 幅広い選択科目
- デュアルシステム・インターンシップ（地元企業・施設等で就業体験、実習等）
- 地域学「鳥羽学」（ドローン基礎操縦、VR基礎操作等）
- 産業社会と人間「とばっ子カンパニー」（起業体験プログラム）
- 異校種連携「幼稚園、小学校出前講座（英語、地域研究、商品開発）等」
- 国際交流「R5インドネシア高校生、R6ミスインターナショナル・フランス」
- ほっとばカフェ（地域こども食堂との連携、放課後生徒の居場所づくり）
- 部活動等連携「フェンシング部合同練習、とばっこくらぶ（地域魅力発信）等」

令和6年度 志摩高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- 「自律・協調・敬愛」の校訓のもと、生徒一人ひとりの希望がかなう確かな進路実現に向けて、「チーム志摩高」として教職員が一丸となって取り組む学校
- 志摩地域唯一の普通科高校として、地域と連携・協働し、地域に貢献し、地域に愛され、地域とともにある学校

2 学校の特色（普通科1学級）

在校生全員が志摩市とその隣接市町の中学校出身という極めて地域性の高い学校で、志摩市内唯一の普通科高校として地域との結びつきを大切にし、地域のサポートをいただきながら、個々の生徒に寄り添った教育活動に取り組んでいます。今後も小規模校のメリットを最大限に生かし、一人ひとりの生徒の満足度を高める教育活動を続けていきます。

(1) 志摩高校が大切にするふたつの学び

①地域について学ぶ

- 3年間の総合的な探究の時間「志摩学」で地域に関する探究活動を行う
- 「志摩学」の一環としてフィールドワークを行い、地域の方の生の声を聞く
- 地域の方を講師に招き、地域の実情を学ぶ
- 地域に関連する題材を取り入れた日々の授業をとおして、多面的に地域を学ぶ
- 部活動、生徒会活動、学校行事等、学校生活全般で地域と関わる

②進路希望をかなえる

- 小規模校のメリットを活かし、一人ひとりの生徒に寄り添った指導を行う
- 習熟度別学習や、放課後の学習タイム「マナビバ」を活用し、基礎学力の定着と一人ひとりに応じた学力向上をめざす
- コミュニケーション能力・社会常識・課題解決能力等、社会の即戦力となる力を身につける
- 1年次からの計画的なキャリア学習をとおして、自身の進路意識を高める

(2) 進路を実現するためのコース

2年次からは、卒業後の進路目標に合わせ、コースに分かれて学習します

- 進学コース・・・進学した大学等で学ぶための基本となる学力を身につけるとともに、進路希望先の受験に対応できる科目を学べ、三重大学教育学部や三重県立看護大学の地域推薦での受験が可能なコース
- 教養コース・・・社会人として求められる基本的な能力や、現代社会で必須とされるパソコンスキルの習得、関連資格の取得に加え、芸術・家庭・体育分野等も幅広く学び、豊かな人間性を育めるコース

(3) 地域連携

- ・地域連携型キャリア教育「志摩学」でのフィールドワークや、事業所等による講演
- ・各種行事への参加「志摩の夏祭り（美術部）」「高校生によるスマホ教室（有志）」
- ・志摩市選挙管理委員会による「模擬選挙」「期日前投票所の設置」
- ・鳥羽警察署と連携したハイスクールパトロール「A f t e r G 7」
- ・志摩市20周年関連事業への作品出展やスタッフとしての参加

他

令和6年度 水産高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

「かけがえのない海を護り、命を尊び、海の恵みを活用する豊かな人間性を備えた人材を育成する」というスローガンのもと、「学力の定着・向上」「希望進路の実現」「豊かな心の育成」に注力し、「地域と社会から信頼され必要とされる学校」

2 学校の特色（海洋・機関科1学級＋水産資源科1学級）

県内唯一の水産・海洋系専門高校として海洋・機関科（2年時より海洋コース、機関コース、水産工学コース）と水産資源科（2年時よりアクアフードコース、アクアデザインコース）を設置し、次のような特色ある教育活動を実施しています。

- 実習船「しろちどり」による長期航海実習
- 海洋環境調査や大型魚貝類の放流など水産資源についての貢献活動
- ダイビングなどのマリンスポーツについての学習
- ディーゼルやガソリン等の各機関や機械等の構造、作動、取扱いについての学習
- 金属材料や機械製図、機械加工等についての学習
- 魚介類の養殖や繁殖保護、魚介類に関する食品加工等についての学習
- 小型船舶操縦士、ボイラー技士、電気工事士、危険物取扱者等の資格取得
- 本校は5級海技士（航海・機関）の養成施設の指定を受けているため、5級海技士の筆記試験が免除
- 大型漁船や貨物船の船長・機関長、士官となるために必要な上級海技士免状の取得をめざす漁業専攻科・機関専攻科（各2年）も設置

<海洋コース>

乗船実習を中心とした専門的な学習を通じて航海や海に関する知識・技術を習得し、海技士（航海）・1級小型船舶操縦士の資格取得を目指すとともに、ダイビング実習等を通じて海洋についての知識・理解を様々な角度から深め、水産業界をはじめとする各産業界や地域に貢献できる人材を育成します。

<機関コース>

乗船実習を中心とした専門的な学習を通じて、船舶の機関士に関する知識・技術を習得し、海技士（機関）・1級小型船舶操縦士の資格取得を目指すとともに、併せて工学に関する基礎的な学習を幅広く行いながら、船舶、工業、港湾関連や地域に貢献できる人材を育成します。

<水産工学コース>

工学的な分野だけではなく、水産、海洋、商業といった多種多様な専門的な学習を行います。併せて広い範囲の専門教科の学習を行い、機械系製造業の関連業界で活躍できる人材を育成します。

<アクアフードコース>

乾製品、ねり製品、佃煮、ビン詰め、燻製品等の水産加工食品を中心に様々な食品についての知識・調理・加工技術を学習します。原材料や副材料についての学習を通じ、様々な食材の特徴や利用について理解を深めます。食品の品質管理や安全管理についての知識を習得し、食に関する関連業界で活躍できる人材を育成します。

<アクアデザインコース>

海洋生物の採集、繁殖、アクアリウムの設計や魚類（ブリ・マダイ・サケマス・金魚など）の種苗生産・養殖管理技術を学習します。また、地域産業である真珠養殖等の学習を行います。海洋環境に関連する諸問題等についての理解を深め、関連業界で活躍できる人材を育成します。

令和6年度 伊勢まなび高校（定時制）の特色

1 めざす学校像

- 生徒が安心して楽しく学べる学校
- 生徒が学びたい内容を自分のペースにあわせて学べる学校
- 生徒が社会に出て自立できる力を身につけられる学校

2 学校の特色

(1) 3部制の定時制高校

普通科の「午前の部」（8：50～12：15）と「午後の部」（13：10～16：35）、ものづくり工学科（工業科）の「夜間部」（17：30～21：05）の3部からなる定時制高校です。生徒はいずれかの部に所属し、基本的に一日4限の授業を受けます。

(2) 単位制の高校として

単位制の本校には、「進級」や「原級留置」という考え方がありません。学校が定める教科科目を74単位以上修得すれば卒業が認められます。定時制高校は4年間で卒業することを基本としますが、本校では自分の所属する部の時間帯以外の授業を受けることにより、3年間で74単位以上の科目を修得し卒業すること（三修制）も可能です。高等学校卒業程度認定試験の合格科目、技能審査に関する学修、通信制課程での修得単位（定通併修）等、学校外での学修成果に対して一定の条件で単位を認定しており、認定された単位を卒業に必要な単位に含めることもできます。

また、社会に出て自立できる力をつけられるよう、必修科目以外に「手話」「ペン習字」「コミュニケーション学習」「地域産業」等、本校独自の多様な選択科目を設定しています。

(3) 通級による指導の導入（県内の高校で初）など多様な生徒支援

本校には、不登校や他校を退学した経験がある生徒、家庭的・経済的に困難さがある生徒、発達障がい等の障がいのある生徒等、特別な支援を必要とする生徒が在籍しています。多様な生徒を支援するため、少人数のクラス編成やティーム・ティーチングの実施、特別支援教育の推進等に取り組んでいます。また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、高校生活スペシャリストや外部機関とも連携しながら、きめ細かな教育を行っています。

特に、発達障がいのある生徒については、障がいによる学習上または生活上の困難を改善・克服し、社会で自立するために必要な力やコミュニケーション能力等を高めることができるよう、通級による指導を実施しています。通級による指導とは、大部分の授業を通常の学級で受けながら、障がい等に応じた特別な指導を特別な場で受ける指導形態のことであり、授業の遅れを取り戻すために取り出して行う指導ではありません。

令和 21 年度までの伊勢志摩地域の県立高等学校（全日制）の総学級数と当協議会の協議について

令和 7 年度 (現中 3) 地域の中学校卒業予定者数 1,748 人 (前年度比 21) 入学定員 1,160 人	令和 8 年度 (現中 2) 地域の中学校卒業予定者数 1,715 人 (前年度比 ▲33)	令和 10 年度 (現小 6) 地域の中学校卒業予定者数 1,560 人 (前年度比 ▲153)	令和 15 年度 (現小 1) 地域の中学校卒業予定者数 1,338 人 (前年度比 ▲87)	令和 21 年度 地域の R5 年度出生者数 938 人
---	--	--	---	------------------------------------

